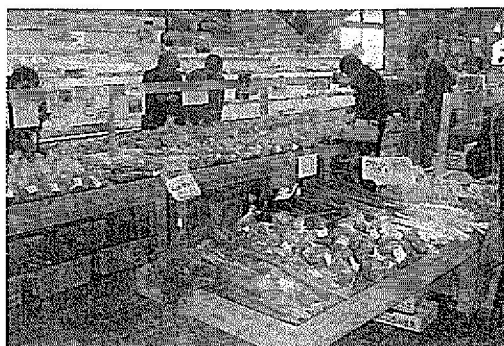


ある新しい3K産業を実践している。

各事業とも地産地消に取り組んでおり、一昨年度の地産地消優良活動表彰（交流促進部門）で最高賞の農林水産大臣賞を受賞。また、洋菓子部門では「ケッコイケてるシュシュプリン」が長崎県新作展最優秀賞を受賞するなど、商品開発にも取り組んでいる。

さらに、食育活動や団塊世代の農業塾など、都市と農村の交流も積極的に取り組んでおり、平成20年度の来場者数は48万人にのぼった。農業交流拠点として、今後も地域農業の活性化に大いに貢献していきたい。

（やまぐち なるみ・おおむら夢ファームシュシュ代表取締役）



直売所には多くの野菜が並ぶ

店舗情報

所在地 長崎県大村市弥勒寺町486
 電話番号 0957-55-5288
 営業時間 10:00~18:00
 （定休日第3水曜日）

トピックス

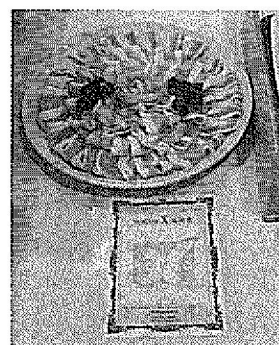
食育とアニマルウェルフェアの重要性を強調
 —TOKYO X-Associationが消費者交流会を開催—

TOKYO X-Association（事務局：㈱ミートコンパニオン）は5月11日、東京の東京プリンスホテルで消費者交流会を開催した。東京都のブランド豚肉TOKYO Xを通じて、消費者に食育とアニマルウェルフェア（動物福祉）について考える機会を持ってもらおうというのが同イベントの目的。会場には170人の消費者を含む約250人が集まった。パネルディスカッションでは、植村光一郎会長司会のもと、服部栄養専門学校の服部幸應理事長、日本獣医生命科学大学名誉教授の松木洋一氏をパネラーに迎えて、議論がかわされた。

服部氏は「幼少時の食生活が、その人の一生の食生活を確立させるので、各家庭の保護者がそれぞれ食育に取り組んでいくことが大切である」と、食育の重要性を指摘。また、松木氏は「EUではウェルフェ

アクオリティーの確立など、アニマルウェルフェアの議論も進んでいるが、日本ではなじみが薄い。これは人間全体の宿題なので、生産者だけではなく消費者も含めて議論していかなくてはならない」と述べてた。

懇親会では、TOKYO Xを用いたしゃぶしゃぶや角煮、ローストポークなど数多くの豚肉料理が披露された。特に、イベリコ豚との味の比較は参加者にも好評で、大いににぎわっていた様子だった。



TOKYO Xのしゃぶしゃぶ肉